

高齢者の幸せと尊厳ある暮らし実現のための アンケート調査結果報告書



平成23年11月

アンケート調査内容	対象		調査時期		配布・回収方法	
無記名自記方式	年齢	配布数	配布日	回収日	配布	回収
回収率 55.3%(11月20日現在) 回収票166票/300票配布	概ね65歳 以上会員	老人クラブ11ク ラブ会員300部	23年9月 22日依頼	同年11月 20日完了	役員に依頼 し周知説明	郵送返信 回収

実施機関:  飯豊町老人クラブ連合会

協力機関: 飯豊町社会福祉協議会・飯豊町民生委員児童委員協議会

統合データに基づく検討と分析結果（まとめ）

～ 家 庭 内 に お け る 幸 福 な 老 い ～

1 分析にあたり

本調査では、本町高齢者の幸福観というものについて基礎となる数値を把握し、高齢者の尊厳ある暮らし実現に向け「幸福な老い」と「虐待」についての因果関係を追跡することを目標としてきた。また、大きく高齢者のみの世帯と家族同居世帯とを比較したとき客観的に見る幸福感は、家族同居世帯が高いとの仮説に従い、高齢者世帯が必ずしもソーシャルサポートの対象となるのが適当かを説き、家族に気を遣って暮らす高齢者よりも単身高齢者世帯の方が、もしかしたら主観的幸福感が高まっているのではないかという疑いから出発することにした。一方で、幸福な老いという面では客観的に増していると見られがちな「家族と同居する高齢者」が家族構成ごと因数に違いが出ているかを分析するとともに配偶者の存在や、孫の存在に深く着目しながら、幸福観と不福感との結びつきについて考え、ひいては高齢者虐待が潜んでいる可能性を探る。

2 調査・回答方法

□対象 町内在住の高齢者300名 （注）要介護状態にある場合は要介護2以下であくまで自記方式

□期間 平成23年9月22日（木）から10月31日（月）まで

調査対象は、自記式尺度を自身で回答することができる高齢者とする事で回答率を上げるために単位老人クラブ会長等に会員規模を考慮しながら35～25部の調査票の配布しできるだけ偏りの少ない一般的な結果を導くことができるよう協力を求めてきた。また、切手を添付した返信用封筒を付属し、回答者のポスト投函意識の向上を狙った。後に、単位老人クラブ会長等は会合の席や個人宅に訪問しながら配布し期限内回答を呼び掛けて頂いた結果166名の回答を得ることになった。【詳細別紙】

3 モラル測定要因の検討

調査地域や調査対象者の違いを越えて、一貫して幸福観・生活満足度に有意な影響を及ぼす要因は健康状態と経済状態といわれている。社会関係量や友人の有無は、結果に大きく影響するといわれ近隣関係の密着度、すなわち社会関係が豊かな方ほどモラルが高く出るといわれる。一説には、高齢女性にとって夫の存在は負の効果を持ち、高齢男性にとって妻の存在は正の効果をもつという知見や、同居する孫の存在が正の効果を持ち、同居する独身の子供の存在が負の効果をもつという知見が報告されている。

方法論としては、下位因子別の得点を算出して比較することも可能であるがこのたびは平均得点を注視している。なお、ある文献によると健常(一般)高齢者の平均点数は、11～12点程度が推察されており、測定者目線として「モラルが高い」ということは、「自分自身についての基本的な満足感を持っていること」「環境の中に自分の居場所があるという感じをもっていること」「動かしえないような事実については、それを受容できていること」という3つの意味が含まれている。更にPGCモラル・スケールの得点は、幸福な老いの程度あるいは「主観的QOL」の指標であり、被検者の相対的な位置を示すもので“幸福な人”や“不幸な人”の弁別を行なうものではないといこうことを前置きしておきたい。

4 高齢者虐待問題への検討

家庭内で暮らす高齢者を支える取り組みの一例として、東京都千代田区では区民に「ノック」という言葉で訴えている。高齢者虐待が起こっているかもしれない・・・という家のドアや、高齢者の心の扉をノックするという意味もあるが、同様に内側からのSOSサインとしてノックを聞き逃さない、あるいは、高齢者や介護者に対して、内側からもノックしましょうという働きかけの意味が込められているようだ。少なからず、今回の調査結果では、回答者の多くが高齢者虐待問題に関心があることが確認でき、専門機関への期待も多いことが分かる。閉ざされた扉の向こうを疑うのではなく、周囲みんなで見守り続けることについて共有意識をもちこの問題に向き合っていくことが更に大切であることを認識した。

5 まとめと考察

今回の調査は、比較的社会や地域との関係性を多く持つ老人クラブ会員を対象としていることがポイントとなり孤独感、不安感という面では、仮に調査対象が非会員を含めた場合より数値が高くなることが予測される。虐待があるか、ないかは、そもそもはくっきりとは浮かび上がってはこなかったが、虐待がないと断言できる結果ではなかったと思われる。数値の並びや自由意見記入欄からそれらを予感させるものも目にとまった。高齢期の特徴として考えられるのは、経済的な安定感はもちろん必要と思われるが、健康状態の安定と地域社会関係の構築、仲間づくりがモラルに大きく影響していることは確実ではないだろうか。

6 謝 辞

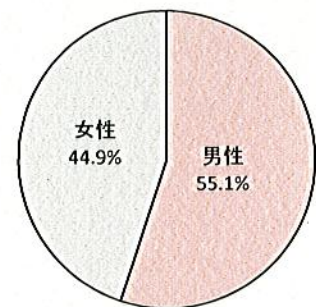
本調査では、社会福祉協議会、民生委員の皆様に変な協力を頂きました。心から厚くお礼申し上げます。

参考文献 孫との関係に着目した高齢者の主観的幸福感に関する研究報告書（武蔵工業大学環境情報学部）

フェイスシート (回答者の顔ぶれ)

Q1 性別は？

S	男性	87	52.4%
S	女性	71	42.8%
有効回答数		158	95.2%
(不明 8)			4.8%
合計		166	100%



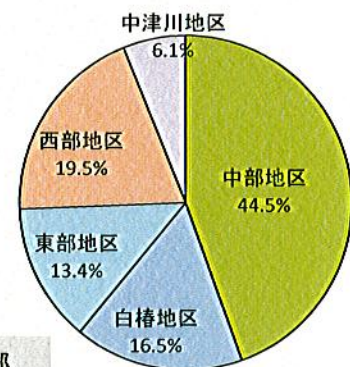
Q2 年齢は？

S	最高年齢	92 歳
S	最低年齢	65 歳
S	平均年齢	77.9 歳

【解説】男女別は有効回答数の過半数以上が男性となり人口と比例する形はとれなかった。年代は約78歳が平均となり、後期高齢者の回答は全体の約7割となっている。

Q3 住まいは？

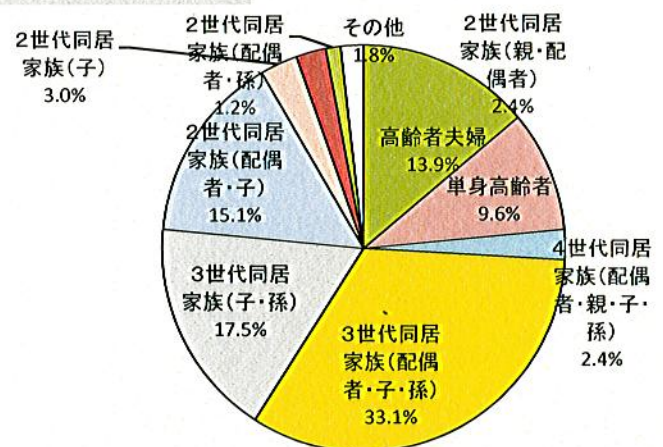
S	中部地区	73	44.0%
S	白樺地区	27	16.3%
S	東部地区	22	13.3%
S	西部地区	32	19.3%
S	中津川地区	10	6.0%
有効回答数		164	
(不明 2)			1.2%
合計		166	100%



【解説】地区別では、ほぼ人口が高いところについては高い回答があった。なお、中部は中、黒沢、萩生、白樺は樺、小白川、東部は添川、松原、西部は手ノ子、高峰で構成されている。

Q4 家族構成は？

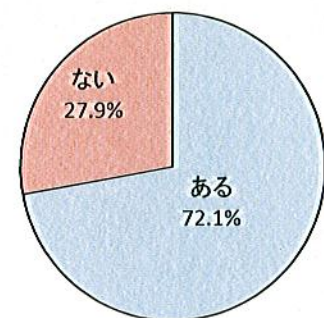
S	高齢者夫婦	23	13.9%
S	単身高齢者	16	9.6%
S	4世代同居家族(配偶者・親・子・孫)	4	2.4%
S	3世代同居家族(配偶者・子・孫)	55	33.1%
S	3世代同居家族(子・孫)	29	17.5%
S	2世代同居家族(配偶者・子)	25	15.1%
S	2世代同居家族(子)	5	3.0%
S	2世代同居家族(親・配偶者)	4	2.4%
S	2世代同居家族(配偶者・孫)	2	1.2%
S	その他	3	1.8%
有効回答数		166	
(不明 1)			0.6%
合計		166	101%



【解説】家族構成でいえば、今回は単身高齢者と高齢や夫婦世帯で約1/4の回答を占めている。3世帯同居世帯からの回答が全体の約1/3となっている。

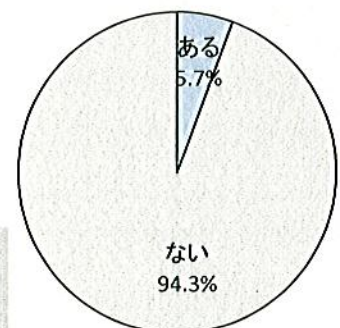
Q5 趣味は？

S	ある	101	60.8%
S	ない	39	23.5%
有効回答数		140	
(無回答 26)			15.7%
合計		166	100%



Q6 介護の必要性は？

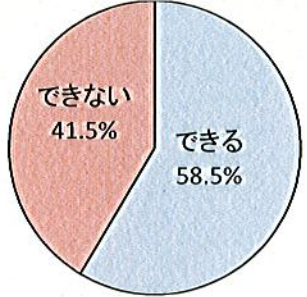
S	ある	9	5.4%
S	ない	150	90.4%
有効回答数		159	
(無回答 7)			4.2%
合計		166	100%



【解説】ここでの介護の必要者は必ずしも介護保険法による要介護認定とは限らないものの介護の必要がないことが9割を超えていることから元気高齢者による回答が圧倒的であり要介護高齢者における幸福感を探るには物足りない数値となった。

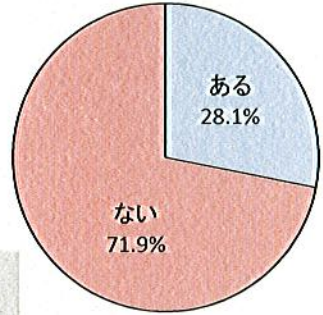
Q7 自動車の運転は？

S	できる	96	57.8%
S	できない	68	41.0%
有効回答数		164	
(無回答 2)			1.2%
合計		166	100%



Q8 心配ごとがありますか？

S	ある	43	25.9%
S	ない	110	66.3%
有効回答数		153	
(無回答 13)			7.8%
合計		166	100%



【解説】自動車が運転できない高齢者が有効回答数の約4割となっている。心配ごとがあるとされる高齢者は全体の約1/4を超えており、最も多かった心配事が「病気」であり、次いで「低所得」「後継者問題」が続き、「除雪」に関して悩んでいるという答えも単身高齢者や、老人夫婦世帯に目立って多かった。

第1章 在宅高齢者の主観的幸福感（PGCモラールスケール）

算出方法>肯定的な回答を1点として合計17点満点とする。高得点ほど「主観的幸福感」が高くなる。		肯定回答	否定回答	無回答
老いの受容～老いに対する態度(5項目)		46.4%	48.4%	5.2%
点数平均値(小計) 2.4				
1. あなたは自分の人生は年をとるに従いだんだん悪くなっていくと思いますか。【思う・思わない】		90	70	6
2. あなたは現在去年と同じくらいに元気があると思っていますか。【はい・いいえ】		85	76	5
6. 年をとって前よりも役に立たなくなってきたと思いますか。【思う・思わない】		45	112	9
8. 年をとるということは若い時に考えていたより良い事だと思いますか。【良い・悪い】		45	105	16
13.前よりも腹を立てる回数が多くなったと思いますか。【はい・いいえ】		120	39	7
心理的安定(6項目)		59.1%	36.7%	4.1%
点数平均値(小計) 3.6				
3. さびしいと感じることがあります。【ある・ない】		108	56	2
4. 最近、小さなことを気にするようになったと思いますか。【はい・いいえ】		116	46	4
7. 心配だったり、気になったりして眠れないことがありますか。【ある・ない】		93	65	8
14.生きることは大変さびしいと思いますか。【はい・いいえ】		63	94	9
16.物ごとをいつも深刻に考える方ですか。【はい・いいえ】		91	66	9
17.心配ごとがあるとすぐにおろおろする方ですか。【はい・いいえ】		118	39	9
孤独感・不満足感(6項目)		74.6%	19.5%	5.9%
点数平均値(小計) 4.7				
5. 家族や親戚、友人との行き来に満足していますか。【満足している・もっと会いたい】		142	17	7
9. 生きていても仕方ないと思うことがありますか。【ある・ない】		135	23	8
10.若い時と比べて、今の方が幸せだと思いますか。【思う・思わない】		92	60	14
11.悲しいことがたくさんあると感じますか。【はい・いいえ】		127	29	10
12.心配なことがたくさんあります。【はい・いいえ】		124	33	9
15.今の生活に満足していますか。【はい・いいえ】		123	32	11
点数平均値(合計) 10.8		60.0%	34.9%	5.1%

各区分ごとの主観的幸福感分析<<17項目すべて御答えになった方のみ>>

I 性別

区分	老いの受容(平均)	心理的安定(平均)	孤独感・不満足感(平均)	合計(平均点数)
男性 <有効回答 87 >	2.4	3.8	4.7	10.9
女性 <有効回答 71 >	2.4	3.5	4.9	10.8

II 年齢別

区分	老いの受容(平均)	心理的安定(平均)	孤独感・不満足感(平均)	合計(平均点数)
①65歳～69歳<有効回答 4>	4.0	4.0	4.8	12.8
②70歳～74歳<有効回答 33>	2.9	4.0	4.8	11.7
③75歳～79歳<有効回答 40>	2.5	3.4	4.9	10.8
④80歳～84歳<有効回答 22>	2.2	3.5	4.8	10.5
⑤85歳～89歳<有効回答 13>	2.1	3.8	4.2	10.2
⑥90歳以上<有効回答 6>	1.2	3.3	4.5	11.2

Ⅲ 地区別

区分	老いの受容(平均)	心理的安定(平均)	孤独感・不満足感(平均)	合計(平均点数)
①中部地区<有効回答 66>	2.5	3.7	4.9	11.1
②白樺地区<有効回答 25>	2.2	3.0	4.6	9.8
③東部地区<有効回答 18>	2.8	3.7	4.8	11.3
④西部地区<有効回答 27>	2.1	3.6	4.4	10.1
⑤中津川地区<有効回答 9>	3.3	4.0	5.0	12.3

Ⅳ 家族構成別

区分	老いの受容(平均)	心理的安定(平均)	孤独感・不満足感(平均)	合計(平均点数)
①4世代同居(配偶者・親・子・孫)<有効回答 3>	3.7	5.3	6.0	15.0
②3世代同居(配偶者・子・孫)<有効回答 47>	2.3	3.5	4.6	10.4
③3世代同居※配偶者無(子・孫)<有効回答 26>	2.0	3.6	4.8	10.4
④2世代同居(配偶者・子)<有効回答 20>	2.5	3.9	4.9	11.3
⑤2世代同居※配偶者無(子)<有効回答 5>	1.8	3.2	5.0	10.0
⑥2世代同居(親・配偶者)<有効回答 4>	2.3	3.5	4.5	10.3
⑦2世代同居※(配偶者・孫)<有効回答 2>	1.5	3.0	5.5	10.0
⑧高齢者夫婦世帯<有効回答 22>	2.8	3.7	4.6	11.1
⑨単身高齢者世帯※配偶者無<有効回答 11>	2.6	3.5	4.8	10.9

Ⅳ-1 子がいる・いない

区分	老いの受容(平均)	心理的安定(平均)	孤独感・不満足感(平均)	合計(平均点数)
①子と同居していない<有効回答 41>	2.6	3.5	4.7	10.8
②子(息子)と同居している<有効回答 86>	2.3	3.6	4.7	10.6
③子(娘)と同居している<有効回答 14>	2.4	3.9	5.1	11.4

Ⅳ-2 孫がいる・いない

区分	老いの受容(平均)	心理的安定(平均)	孤独感・不満足感(平均)	合計(平均点数)
①孫と同居している<有効回答 76>	2.6	3.6	4.7	10.9
②孫と同居していない<有効回答 65>	2.6	3.7	4.8	11.1

Ⅳ-3 配偶者がいる・いない

区分	老いの受容(平均)	心理的安定(平均)	孤独感・不満足感(平均)	合計(平均点数)
①配偶者がいる男性<有効回答 61>	2.4	3.8	4.7	10.9
②配偶者がいる女性<有効回答 33>	2.8	3.7	4.9	11.4
③配偶者がいない男性<有効回答 13>	2.5	4.0	4.8	11.3
④配偶者がいない女性<有効回答 28>	2.0	3.3	4.9	10.2

Ⅴ 趣味がある・ない

区分	老いの受容(平均)	心理的安定(平均)	孤独感・不満足感(平均)	合計(平均点数)
①趣味がある<有効回答 91>	2.5	3.7	4.8	11.0
②趣味がない<有効回答 33>	2.1	3.2	4.4	9.7

Ⅵ 心配ごとがある・ない

区分	老いの受容(平均)	心理的安定(平均)	孤独感・不満足感(平均)	合計(平均点数)
①心配ごとがある<有効回答 35>	1.9	2.7	3.7	8.3
②心配ごとがない<有効回答 97>	2.7	4.1	5.2	12.0

Ⅵ 自動車の運転ができる・できない

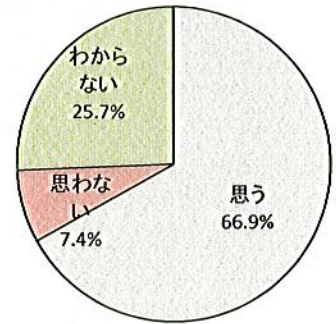
区分	老いの受容(平均)	心理的安定(平均)	孤独感・不満足感(平均)	合計(平均点数)
①運転できる<有効回答 83>	2.6	3.7	4.6	10.9
②運転できない<有効回答 56>	2.1	3.6	4.6	10.3

【解説】全体でみると、一般的に得点の平均値は11～12点といわれる中で、本調査では10.8が平均値となりやや低い結果となった。男女別での違いはほとんど表れていないが年代別に平均得点を見ると60代の方は主観的幸福感が高いとの結果が表れている。また、地区別では、中津川地区の平均点数が他地区よりやや上回った。家族構成別では4世代同居者が最もモラルが高く、単身世帯や老人夫婦世帯においても家族と同居している方と同じような平均得点となった。特に孤独感に関する因子を見ても若い世代と同居する高齢者と大きい違いはなく、逆に老いの受容においては、単身高齢者の方がやや高い数値となっている。子と同居している方に限って細かく見てみると息子と同居より実娘と同居している方の幸福度が高いことがわかる。次に、孫との関係に着目したが特に大きな違いは出ていない。又、一説には高齢女性にとって夫の存在は負の効果を持ち、高齢男性にとって妻の存在は正の効果を持つといわれているが本町の場合、男性の場合、妻がいない人より妻がいる人の方がモラルは高く、女性は、夫がいない人よりいる人の方がモラルは高い結果となっている。特に、妻がいない男性の心理的安定度は4.0と全平均を上回っている。続いて、趣味があるか・ないかによる違いを見てみるが、ここが今回の調査で大きく違いが出た要素となった。趣味がない人のモラルが低いのが一目でわかり、心配ごとがあるか・ないかでは、心配事がある人のモラルが極端に低くなっていることがわかる。最後に自動車の運転ができるできないでは運転できる方の方のモラルが上回っている。なお、年をとって前よりも役に立たなくなったと感じている高齢者の割合が非常に高いのが気になったが、一方で家族や親せき、友人との行き来に満足しているという答えが最も高い肯定回答率となったことは言うまでもない。

第2章 高齢者虐待に関する調査

Q18 高齢者虐待防止対策について専門機関等がもっと力を入れるべきだと思いますか。

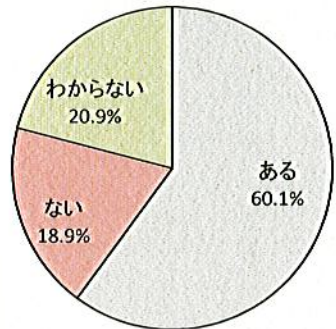
S	思う	99	59.6%
S	思わない	11	6.6%
S	わからない	38	22.9%
有効回答数		148	
(無回答 18)			10.8%
合計		166	100%



【解説】高齢者虐待問題に対し、専門機関に期待する回答が「わからない」「思わない」と答えた人の倍数を占めている。

Q19 あなたは高齢者虐待問題について関心がありますか？

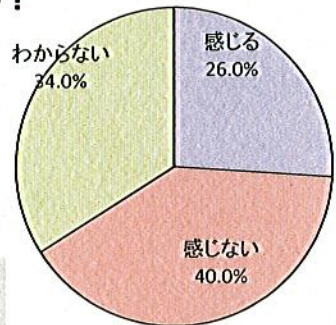
S	ある	89	53.6%
S	ない	28	16.9%
S	わからない	31	18.7%
有効回答数		148	
(無回答 18)			10.8%
合計		166	100%



【解説】高齢者問題への関心度も非常に高く、老人クラブとして取り組んだ本会の取り組みは意義があったことを証明している。

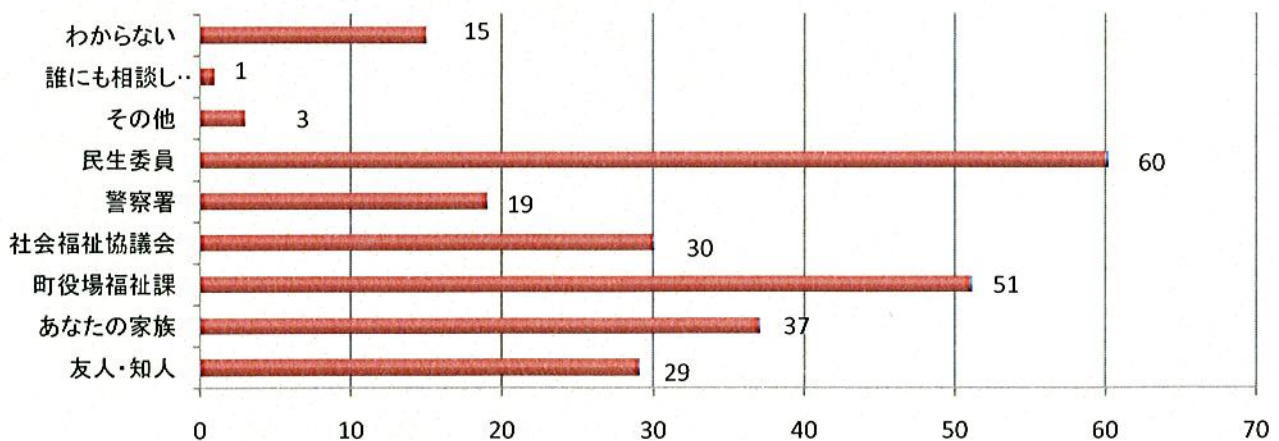
Q20 あなたの周囲で高齢者への虐待の事例は実際にあると感じますか？

S	感じる	39	23.5%
S	感じない	60	36.1%
S	わからない	51	30.7%
有効回答数		150	
(無回答 16)			9.6%
合計		166	100%



【解説】デリケートな設問であるが1/4以上の回答者が虐待があるように感じていることがわかる。虐待があると感じている人を分析してみたが特に男女どちらかに傾いているわけでもなく、地区によって偏っているという実態ではなかった。

Q21 万が一あなたの友人や近所の高齢者が虐待を受けていたり、虐待を受けている可能性があると感じた場合、どこに相談しますか【複数回答可能】



【解説】民生委員の方への信頼が最も高いことを示している。注目したいのは「家族」に○をつけた方が以外にも多く、世代間のつながりや家族に相談できる信頼関係が高いことがわかる。ただ、「わからない」と答えた回答者には、今後何らかの情報提供が必要になってくると思われ、相談窓口をもっと広報すべきという伝え方もできる。

Q22 高齢者虐待についてあなたのお考えや、実際にあった事例などを差し支えなければご記入ください。

〈虐待に関する声なき声〉

- ① 老人(高齢者)の部屋に勝手に入る。(誰もいない時)・風呂になかなか入れない。(夜遅いので11時頃)・食事の時間が決められる。(食事抜きもあり)【71歳女性】
- ② 知人その他の方からはなしで毎食事のおかずに区別をつけられる何事にも家族の言葉がない無言の虐待。【77歳男性】
- ③ 虐待は家の中だと思います。孫は早く死ねといい常に会話はありません。動けなくなる前に施設へ入らないと身体的虐待を受けるようになると考えられます。【73歳女性】
- ④ 施設入所者に対し虐待行為の事実を耳にしたことがある。そのような事は絶対許せない事であり高齢者の保護に行政をはじめ、社会全体で虐待防止に取り組むべきである。【男性】
- ⑤ 私は嫁に言葉もかけてもらえない息子がいないとご飯を食べさせてもらえない早く死ぬように色々なものは食べさせない。【女性】

〈相談機関、民生委員に関すること〉

- ① どうしたらよいか相談する所があったら助かる、サポートする人が身近にいると老人は助かると思います。【77歳女性】
- ② 問題解決のために直ちに関係者に連絡を取る対策を願う。【79歳男性】
- ③ 虐待があったらすぐ町福祉課又民生委員へ相談に行きます。これからの人生家族仲良く楽しく生きて行きたいと思います。【74歳女性】
- ④ 本人も悪い処があると思うので家族で話し合い民生委員の方に相談し役所の手を借りる。民生委員の方に大きな目を開いてもらい虐待ばかりでなく一人暮らしの方にも声をかけてもらい話し相手になる事も良いと思う。【73歳女性】
- ⑤ 高齢化が進むにつれ不服不満があつてあたりまえ自分自身の心掛けで自然と虐待も防げる老いの道前向きに年寄りらしく生きたい最後になりますがもう少し民生委員の方の手助けをいただきたいと思います。【77歳女性】
- ⑥ 民生委員は誰なのか。地域に世帯があるがだれも来ない状況。【70歳男性】

〈その他〉

- ① 高齢者虐待とは別ですが、高齢者(病弱者・1人暮らし)等が入所できる福祉施設の増床を望む。【78歳男性】
- ② 特別な事はありませんが国民年金では家族につくす事があまりなく人の世話になる事は大変です国民年金でも遺族年金になればと思います厚生年金はいいなと思います誰でも平等になる時が来る事を願います。【73歳女性】
- ③ 戦前の貧困な生活を味わい現在の豊かな生活が出来ることは最高の幸せとは思いますが何らかのギャップが出来溝が入り虐待という形が出来るのでしょうか。家族なんだ老人も家族の一員なんだという認識が大切と思うんですが。【82歳女性】
- ④ デマンド交通をなくさないで下さい。年金を下げないで下さい。高齢者がぐらし良い様に。【74歳女性】
- ⑤ 家庭での対話が少ないのが多い。【91歳女性】
- ⑥ 相談するのは役場です。担当者は相談にのってくれます。今の飯豊町役場は無政府状態です個人情報守るとの理由で聞く耳もたずこの辺を議会で追求してもらいたい。但し議会も聞く耳もたず飯豊町しっかりしましょう社協頑張れ飯豊町よくしよう。【男性】
- ⑦ 視聴がないのでわからないが、ある程度我慢している人はおられると思う家族が、仲良く暮せば虐待はない。老人会のレク大会今後も続けてほしい。【79歳女性】

【解説】ご意見の中には、家庭内で生活する高齢者の悲痛な叫び声が聞こえるような回答が出されたことは残念であり、在宅における虐待問題の難しさを考えさせられるものとなった。民生委員や役場、社会福祉協議会への期待もあり、福祉施設の充実や他制度への要望・意見なども見られる。「家族と仲良く…」これは、当然のことであるが、家庭を円満にするためどうしたらいいか永遠の課題であり大きな宿題といえるのではないだろうか。